

# 私学の魂

八雲学園中学校・高等学校

## 創立80周年を機に共学化に踏み切り、 破格の英語教育、グローバル教育の環境へ、 男子小学生にも門戸を開いた 世界の「ラウンドスクエア」加盟校!

中学校を再開した1996（平成8）年から21年を経て、創立80周年を翌年に控えた今春2月に、八雲学園は来春2018年4月からの共学校化を公表しました。

これまでも破格の英語教育とグローバル教育、豊かな体験教育で定評を集めてきた同校ですが、大学入試や日本の教育が大きく変わろうとする節目の時期に、「Perfect Harmony of Tradition & Innovation～時代が切り拓く『伝統』と『革新』の確かな調和～」というスローガンを掲げて、男子にも門戸を開き、新たなステージに向かうことを高らかに宣言しました。

今回は、中学再開の前年に校長に就任し、その後20年にわたって八雲学園の教育をリードすると同時に、現在も東京私立中学高等学校協会の会長を務める近藤彰郎先生と、同校中学部長の横山孝治先生、高校部長の菅原久平先生にお話を伺い、共学化にあたっての展望と抱負を語っていただきました。



理事長・校長の近藤彰郎先生

### DATA

#### 1

#### 八雲学園中学校・高等学校

沿革	1938（昭和13）年	八雲高等女学校創立、初代校長近藤敏男先生就任。
	1946（昭和21）年	GHQ 高官婦人を招き英会話の授業が始まる。
	1994（平成6）年	アメリカ・サンタバーバラに海外研修センター「八雲レジデンス」完成。
	1995（平成7）年	校長に近藤彰郎先生就任。
	1996（平成8）年	八雲学園中学校再開。
	2008（平成20）年	創立70周年を迎え記念式典、祝賀会が行われる。
	2017（平成29）年	「未来発見入試」を新設。ラウンドスクエアに加盟。
	2018（平成30）年	中学を共学校化。「帰国生入試」新設。創立80周年を迎える。

校長 近藤 彰郎

所在地 〒152-0023 東京都目黒区八雲2-14-1  
TEL：03-3717-1196  
<http://www.yakumo.ac.jp/>

交通 東急東横線「都立大学駅」から徒歩7分。  
そのほか JR・東京メトロ「渋谷駅」、「目黒駅」からバスの便あり。

## 『伝統』と『革新』の確かな調和のために 来春 2018 年から共学校化！

東京都の西南部、神奈川県横浜・川崎エリアからも交通の便の良い東急東横線「都立大学駅」から徒歩7分の、閑静な住宅地にある八雲学園中学・高等学校。近くには駒沢オリンピック公園があり、緑が多く、空気が澄んだすばらしい自然が失われずに残っています。

来春 2018 年で創立 80 周年を迎える同学園は、その機に共学校として生まれ変わり、これまで定評のあった破格の英語教育、グローバル教育、豊かな体験・感性教育を、男子生徒も受けられるよう門戸を広げ、「Perfect Harmony of Tradition & Innovation～時代が切り拓く『伝統』と『革新』の確かな調和」というスローガンを掲げて、新たなステージに向かうことを、今春 2 月末に高らかに宣言しました。

八雲学園で 21 年間、校長を務めてきた近藤彰郎先生は、共学化の経緯をこう語ってくれました。

「八雲学園は、アメリカに渡って事業を成功させた創立者の近藤敏男が、現地での経験から英語力の必要性和女性の立場の日本との違いを痛感し、それを日本でも向上させたいと願って帰国後の 1938（昭和 13）年に創立した高等女学校です。

太平洋戦争の影が忍び寄る当時の日本国内で、英語教育や女性の地位向上を掲げる女学校を立ち上げるのは大変なことだったと思います。しかし、当時から 80 年にわたって、本校は女子教育の理念を受け継ぎ、私自身も 1978（昭和 53）年から本校教員として、その女子教育に携わってきました。

しかし、時代が変わり、男女平等・男女同権の社会から、次は男女協働という、互いにリスペクトする関係が求められる時代を迎えて、男女がともに学ぶ教育環境へと進化させる決断をするに至りました。実は数年前から私自身は検討していたのですが、ここにきて



八雲学園の姉妹校で全米トップクラスのエリート校・ケイトスクール（Cate School）との交流。



都の私学部が届け出をスムーズに受理してくれたこともきっかけになりました」

同校の共学化が公表されたのは、今春の中学入試が一段落した 2 月 20 日。その 2 日前に在校生と保護者（後援会）へ報告した際には、長らく女子校として親しまれ、なかには親子 2 代で通う家庭や姉妹で入学するケースも多かっただけに、反対意見や軋轢があることも近藤先生は覚悟していたといえます。

「ところが驚いたことに反対の意見はまったく寄せられませんでした。一人の保護者からは『共学化してどういう学校になり、何をやるのか、もっと詳しく説明してほしい!』という期待を込めた要望もありました。これはありがたいことでした。

また、共学化を決定してから、最初は驚いていた教員が、直後から今後のあり方を考え、新しい発想で動き始めてくれたことが、ちょうど 20 年前に中学を再開したときのような、学内の活性化につながっています。今とても好い雰囲気です」と近藤先生。来春の共学化が、八雲学園の教員や在校生、関係者にも良い刺激を与えているということでしょう。

「従来から大切にしてきたグローバル教育、英語教育、またマナー教育などの感性・体験教育は変わらず大切にしていきたいという考えでまともまっています」と近藤先生は言います。

## 日本人の持つ力を生かすために 新たな「3 ステージ制」の各段階で、 プレゼンテーション能力を育成

それでは、共学化した新生・八雲学園では、次のステージで新たにどのような教育を実践していくのでしょうか。

## 3 ステージ制の導入

### 海外大学・国公立大学・早慶上理への進学



ステージ

III

高校2年～3年

これまで培ってきた「プレゼンテーション能力・思考力・判断力」で多様な入試形態に対応  
特別進学プログラムと合わせて徹底した演習を行い、受験体制を確立  
社会に出て即戦力として使えるマナー等の習得



ステージ

II

中学3年～高校1年

論文作成・読解を通してプレゼンテーション能力を向上  
海外研修・留学プログラムを体験(2週間、9カ月、1年間)  
グローバル体験により国際感覚を磨き、将来の進路にむけての意識を高める



ステージ

I

中学1年～2年

プレゼンテーション能力の育成  
調べ学習・アクティブラーニングを多用  
基礎学力の蓄積の徹底

「その柱のひとつが、プレゼンテーション能力の育成・向上です。日本人は学ぶ力、知識を吸収する力は世界でも優れています。課題は発信する力、考えを伝えることだと考えています。

いまも毎年、姉妹校のケイトスクールへの訪問を実施していますが、このケイトスクールの生徒のプレゼンテーション能力には感心させられます。非常に良く発言もします。実施した初年度には、ケイトスクールの生徒の発信や発言に、本校の生徒はほとんど返答できませんでした。その反省や口惜しさもバネにして、翌年から本校の生徒も非常に積極的に発信・発言するようになりましたし、そのための英語力も磨きました。

このときから課題としてきたプレゼンテーション能力を高めるための新たなプログラムと授業の工夫を、各教科で導入・実践していきます。そしてその力は、2020年の改革後の大学入試でも、必ず生きてくるものです」と近藤先生は考えています。

そのために、プレゼンテーション能力の育成が大学進学力のアップにもつながる「3ステージ制」を導入するといえます。

中学1年～中学2年の「ステージI」では、調べ学習とアクティブラーニングの多用で基礎的なプレゼンテーション能力の育成を図ります。続いて中学3年～高校1年の「ステージII」では、海外研修・留学プログラムやグローバル体験で国際感覚を磨くとともに、将来の進路に向けての意識を高め、論文作成・読解を通してプレゼンテーション能力を向上させます。そし

て高校2年～高校3年の「ステージIII」では、特別進学プログラムと合わせて徹底した演習で受験体制を確立すると同時に、これまで培ってきたプレゼンテーション能力・思考力・判断力で多様な入試形態に対応できる力を身につけていきます。

「こうして伸ばした発信力(=プレゼンテーション能力)が、これから大きく変化する2020年以降の大学入試における、海外大学・国公立大学・早慶上理などの難関国公立大学への受験・進学でも、必ず生きてくると考えています」と、近藤先生とともに、中学再開から20年間の八雲学園の中高6年間一貫教育をリードしてきた中学部長で募集委員長を務める横山孝治先生は言います。

「人前で自分の考えを伝え、理解してもらう体験が生徒自身の学習のモチベーションを高め、社会に出ても生きるプレゼンテーション能力の向上につながれば、日本人の誇れる様々な力をもっと発揮できるはずですよ」と、近藤先生も確信しています。

そのために、八雲学園の先生方も現在、各自のプレゼンテーション能力を磨くためのトレーニングに力を注いでいるといえます。



中学部長の横山孝治先生





2018年4月からは生徒全員がタブレットを持ち、各教科で使用。PBLやプレゼンテーションにも活用していく！

## 八雲式「PBL（問題解決型学習）」の実践とタブレットでの「ICT教育」も導入

そういう新たな「3ステージ制」を導入する一方で、主要5教科では、3つのステージを越えた“八雲式”問題解決型学習（PBL：Problem Based Learning＝生徒が主体的に問題を発見し、それを解決していく能動的な学習法）を取り入れていきます。

さらに来春2018年からは、生徒全員がタブレットを持ち、各教科で活用していきます。これによって学習内容がしっかり身につく反復学習を徹底すると同時に、こうしたICT機器を使って仲間と意見を交わし、共有して様々な気づきを得ることで、自分たちが「何を考えたら良いか？」と自ら問いを立て、解決の方法を探っていく力を育てていきます。

「こうした3ステージ制でのプレゼンテーション能力の育成や、新たな八雲式PBL、独自のICT教育を展開していく時間を作るために、八雲学園ではすでに今春から、始業時刻をこれまでの8時50分から8時25分に早め、火曜・木曜の週2日は7時間目の授業を設けられる形にしています」と、高校部長の菅原久平先生は説明してくれました。

「これによって、たとえば“中学3年間で29時間の英語授業”という、中学再開からの本校の特徴も維持しながら、新たな教育プログラム、最新のメソッドを導入することが可能になります」と菅原先生。

こうした面倒見の良さと最新のメソッドで、生徒の大学進学を強力にサポートすると同時に、新たな時代に求められる力を育てていく新生・八雲学園。1938（昭和13）年の創立以来培ってきた「伝統」と、来春2018年の共学化を契機に始まる未来への「革新」——。この二つの調和が、冒頭に紹介したスローガン「Perfect Harmony of Tradition & Innovation～時代が切り拓く『伝統』と『革新』の確かな調和」の意味するところです。

「共学という新たなステージで、次世代のグローバルリーダーを育てるために八雲学園は進化します。その点に注目し、期待していただきたいと思います」と近藤先生は力強く語ります。

## 破格のグローバル教育の拠点となる米サンタバーバラの「八雲レジデンス」

そして、近藤先生が新たに強調する「次世代のグローバルリーダー育成」に大きく寄与するのが、八雲学園の創立の理念でもあり、同校が時代に先駆けて取り組んできたグローバル教育の数々の実践であり、独自の教育環境です。

近藤先生が校長に就任する前年の1994（平成6）年にアメリカ・サンタバーバラに完成した海外研修センターが「八雲レジデンス」です。「40エーカー（＝約4万8千坪）という広大な敷地に、独自の研修施設を持つ学校は、私立中高では日本で唯一です。この『八雲レジデンス』が、同校のグローバル教育の拠点となります。」と近藤先生。学園がこの施設を持つことで可能になる海外体験の広がりや充実度には自信を持っています。

1999（平成11）年から実施されてきたアメリカ海外研修では、中学3年生が全員、この「八雲レジデンス」を拠点に2週間の研修を体験。UCSB（カリフォ

ここから世界へ！八雲学園グローバル教育の拠点

トピック

### 八雲レジデンス



カリフォルニア州ロサンゼルス北に位置するサンタバーバラ。この町の海岸に面した丘陵の中腹にある「八雲レジデンス」は、広大な敷地内に宿泊施設はもちろん、ゲストハウス、温水プールやテニスコートを有する本校の校外施設です。

1年中温暖な気候に恵まれ、設備も充実。目の前に太平洋を一望できる風光明媚なレジデンスは、リゾートホテル並みの快適さを味わえます。

中学3年次のアメリカ海外研修をはじめ、高校9カ月プログラムや部活動の海外遠征でも利用され、ここを中心に研修や姉妹校との交流、市内観光など、さまざまなアクティビティも展開され、文字通り八雲のグローバル教育の拠点です。



アメリカの名門・エール大学 (Yale University) との交流。米大学生の姿も生徒の目標のひとつになる！

ルニア大学サンタバーバラ校)での授業を中心に、八雲学園の姉妹校でもある全米トップクラスのエリート校・ケイトスクールや地元の学校との交流も行います。

一度に60名が宿泊可能なこの施設に3～4泊交代で宿泊しながら、全体で2週間の研修を、中学3年の2月末～3月にかけて生徒全員が体験することができます。

このほか、2014(平成26)年からは、高校1年次に9カ月プログラムも実施。これは、「出発前の3カ月間の事前学習(Pre-learning)」～「3カ月間の留学先滞在(Over-Study)」～「帰国後3カ月間の事後学習(Post-learning)」という、実質9カ月間にわたる充実した語学研修プログラムです。

さらにはこの先、高校1～2年の希望者を対象に、1年間の留学プログラムを新設します。

そして来春2018年からの共学化にともない、日本国内の私立中高では破格ともいえる充実した海外研修・語学研修のプログラムを、男子生徒も体験できるようになります。

さらに八雲学園は、世界50か国の私学180校が所属している国際私立学校連盟「ラウンドスクエア」にもすでに加盟。今後は先の「八雲レジデンス」を、このラウンドスクエア加盟校の交流の場とすることも企画されているといいます。

「この施設を“世界の人人々と触れ合う”拠点として、八雲学園の生徒は、他にはない豊かな海外交流体験をすることが可能になります」と近藤先生は、この先の新たな展開も含めて、八雲学園ならではのグローバル教育への自負を語ってくれました。

さらに今後の八雲学園では、これまで私立中高一貫校のなかでも屈指と評価されてきた英語教育のプログラムをさらに進化させ、生徒の英語力アップの目標を一段と高いところに置きました。具体的には、英検対策をさらに推進したうえで、英検2級以上の生徒は、TOEFL主体の対策へと移行し、「2020年大学入試改

革」で導入される英語民間検定の目安として文部科学省からも示されている「CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: ヨーロッパ言語共通参照枠)」の「C1レベル」の英語力の取得をめざすといえます。

2015/09/29版

**各試験団体のデータによるCEFRとの対照表**

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior	TOEIC / TOEIC SBW
C2	CPE (200+) (180-199)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2000-2400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 (180-199)
B2	FCE (160-179)	準1級 (2000-2400)	1250-1399	980 (1600-1799)	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 (160-179)
B1	PET (140-159)	2級 (2000-2400)	1000-1249	815-979 (1400-1599)	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 (140-159)
A2	KET (120-139)	準2級 (2000-2400)	700-999	565-814 (1200-1399)	3.0	186-225		300-321	385-785 (120-139)
A1		3級-5級 (2000-2400)	-699	-564 (1200-1399)	2.0				200-380 (120-139)

※各試験団体は公表資料より文部科学省において作成

ちなみに、この「CEFR」レベルCは広範で複雑な話題を理解して、目的に合った適切な言葉を使い、論理的な主張や議論を組み立てることができる上級レベルの者を指します。大学入試改革で文科省が掲げる「B2レベル」の英語力よりも、一段と高いところを八雲学園はめざしているのです。

## 八雲学園教育のもうひとつの特徴 多彩な「文化体験」が育てる、 豊かな感性と他者理解の力

そして、これらの破格な英語教育、グローバル教育のプログラムと表裏一体となって八雲学園の教育を形作っているのが、多彩でバリエーションに富んだ「文化体験」プログラムです。

日本だけでなく、世界の多様な文化に触れ、体験を重ねることで豊かな感性を磨きます。月に1回「文化体験」の日を設け、美術、ミュージカル、映画鑑賞をは



ケニアのラウンドスクエア加盟校との交流。



独自のチューター（学習アドバイザー）制度も特徴のひとつ。学習面でのアドバイスを中心に、日常生活での悩みや不安の相談相手にもなってもらえる。

じめ、様々な場所に出かけて文化や歴史を探求します。

グローバル教育の一環でもある、ラウンドスクエア加盟校やエール大学との交流も毎年行われており、中学3年次のアメリカ海外研修では、語学研修だけではなく、現地で実際にアメリカの文化に触れることで、国際感覚を身に付けていきます。

今回の取材の数日後の6月初旬には、恒例のエール大学の大学生との音楽国際交流が行われ、今年も生徒は大きな刺激を受け、今後の学習へのモチベーションを高めました。

3年前にはダライ・ラマ法王も、日本への来訪の際に同校を訪れ、生徒に優しく声をかけ、励ましをしてくれたといえます。

もうひとつ、八雲学園の豊かな教育と、私立中高一貫校のなかでも屈指の「面倒見の良さ」を支えているのが、校長の近藤先生をはじめとした教師陣の熱意と、独自の「チューター（学習アドバイザー）制度」です。

中学の3年間、ホームルームクラスの担任とは別の教員が生徒一人ひとりに個別に対応。学習面でのアドバイスを中心に、日常生活の悩みや不安などの相談相手になってくれます。

また八雲学園の生徒は、英語学習や大学受験で高い目標を掲げて努力する一方、そのなかには、スポーツや文化、芸術、芸能活動で一流をめざす生徒がいることも、同校の活気を生み出す一因となっています。空手やバスケットボールでは全国屈指のレベルで活躍を続けていますし、小学生や保護者にもよく知られるタレントのOGなどもあります。そうした多彩な才能、目標をめざす生徒が同じキャンパスで日々活動し、ともに英語やグローバル教育を体験し、学習していることも、同校の校風に豊かな彩りを加えているといえるでしょう。

そして来春2018年からは、ここに新たに男子生徒が加わり、同時に「帰国生（一般生とは別枠の入試）」も新設されます。同校の教育環境の多様化（＝ダイバーシティ化）はさらに進むこととなります。

八雲学園の理事長・校長であり、同時に東京私立中



高校部長の菅原久平先生

学高等学校協会会長を務める近藤彰郎先生は、私立中高の教育の発展のために大忙しな日々を送っていますが、その一方では、ご自身も学生時代から打ち込んできた空手の普及・発展の支援にも力を注ぎ、いままも全国高体連空手専門部の部長を務めています。

「新たに入学してくる男子生徒には、女性をリスペクトし、弱者への思いやりを持つナイト（騎士道）の精神を培ってほしいと願っています。その意味でも、共学化で迎え入れることのできる男子への期待と楽しみは大きいですね」と笑顔で話す近藤先生。

もうひとつ特筆すべきは、八雲学園の先生方と在校生が持つホスピタリティと、来校者を迎える際の「おもてなし」の姿勢（ウェルカム精神）です。そのため、一度でも同校を訪れた小学生と保護者のほとんどが、同校のそうした雰囲気に関心を抱き、熱烈なファンになるケースも多いことです。

現に首都圏模試センターの「統一合判模試」の会場となった時に同校を訪れた受験生の多くが、その温かな雰囲気に魅了され、受験校のひとつに考えるケースが例年数多く見られます。きっと同校の学校説明会や体験授業の機会でも、同じように感じた小学生と保護者は多いことでしょう。

そうした機会に、この八雲学園の新たな「『伝統』と『革新』の確かな調和」による教育の進化を知るために、親子で足を運んでみることをお勧めしたいと思います。



今年も6月に行われたエール大学・女性コーラスチームとの協働ワークによるリベラルアーツ連携。